
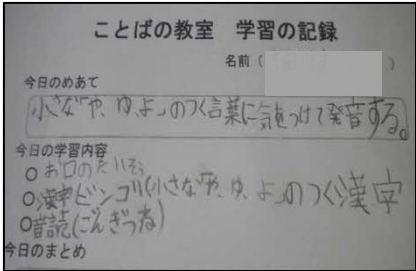


発音の課題に主体的に取り組み、生活に生かす指導の工夫

「拗音の構音点に気を付けながら発音するための教材」

子どもについて	学部・学年・学級	小学校・4学年・通級による指導
	障がい名等	言語障がい
	子どもの実態 (学习上又は生活上の困難さ等)	発音の不明瞭さがあり、通級による指導を受けている。在籍学級では、周りの児童にうまく伝わらないことや話し方を指摘されることもあり、けんかになることもあった。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	通級による指導
	単元(題材)名	「拗音を含む単語をなめらかに発音しよう」
	単元(題材)の概要	発音に必要な音の獲得順序(発音要領)や本人の発音の定着状況を踏まえながら指導している。今年度は拗音の発音の学習をしている。 本児が、自分の発音を振り返り、自信をもって学校生活においても発言できるようになるよう指導を進めている。
教材・教具・支援機器について	教材・教具・支援機器	拗音の構音点に気を付けながら発音するための教材  <ul style="list-style-type: none"> ・教師が「き」などの文字を提示し、発音がしっかりできてから、くるりと裏返し「や・ゆ・よ」音を読むようにする。 ・慣れてきたら、だんだん「き」と「や」の文字の発音の間を短くし、「きや」などの拗音の発音につなげる。
	ねらい・工夫点等	<p>学習の記録(学習のめあてと学習内容)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあての確認を行い、達成のための活動を複数用意し、児童が選択して主体的に取り組む機会を設定している。 ・毎時間及び長期的な学習の振り返りを行い、できている点を確認する。
	材料・作成方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柄にしたストローの先の円の表に子音を大きく書き、裏に「や・ゆ・よ」を小さく書いた。
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本児自身がつまずきの原因を理解し、読む速さに気を付けながら落ち着いてゆっくり読むことができた。 ・ 自分の発音が明瞭になっていることを実感し、うまく言えなかった頃の苦しかった気持ちを教師に話す様子が見られた。 	